

# 1年2組 算数科学習指導案

令和6年11月15日（金）

場 所 1年2組教室

指導者 平石 英之

## 1 単元名 ひきざん

## 2 目 標

- ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といいくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。 【知識及び技能】
- ・数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といいくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

## 3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 既習の加減計算や「10といいくつ」という見方を基にした13～9等の計算の仕方を理解している。</p> <p>② 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は被減法を10のまとまりといいくつにわけて考えればよいことを理解している。</p> <p>③ 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算している。</p> <p>④ 簡単な場合について、2位数などについても加法や及び減法ができるこを理解している。</p>	<p>① 10のまとまりから1位数を引いて計算すればよいことを考えている。</p> <p>② 減数、減数の大小に關係なく、10のまとまりから1位数を引くことに着目して計算の仕方を考えている。</p> <p>③ 計算カードの並び方について、被減数が1増えると減数も1増える、という関数的な見方に気づき、数の関係を説明している。</p> <p>④ 単元の学習を活用して問題の解決の仕方を考え、説明している。</p>	<p>① 既習の加減計算の学習や数の見方を基に、13～9等の計算の仕方を考えようとしている。</p> <p>② 単元で考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。</p>

## 4 単元について

本単元では、「10といいくつ」という数の見方に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある計算の仕方を考え、理解し、計算することができる力を育成することをねらいとしている。児童はこれまでに「10よりおおきいかず」の学習で、ブロック操作から数の構成を10とあ

といふと捉えることによって、 $15 - 5$ などの減法の計算をしている。しかし、問題文に対して具体物、図、式を別々のものとして捉えている児童もあり、減法の計算の仕方の理解、操作や図を用いて自分の考えを表現する力が十分でないと考えられる。

そのため、図を用いて考え方を説明する活動を行い、減法計算の仕方の理解、操作や図を用いて考える力の育成を図る。具体的には、オクリンクを用いて問題解決の過程や結果を表現し伝え合う。そのために言語で表現するモデルの提示を行う。本単元の導入では既習のひき算の仕方を確認し、「10のまとめ」や「ばら」といった用語を用いて説明することを押さえる。毎時間学習履歴を振り返り、具体的に用いるとよい用語や説明の手順を本時でも児童の説明に活かせるようにしたい。本時では、計算の仕方を図の操作を複数回繰り返し発言させることで図の操作と言語の一一致をはかる。単元の終末には、減法計算の仕方の理解、操作や図などを用いた過程や結果を振り返り、日常生活の場面で生かそうとする態度を育てたい。

## 5 主体的に学ぶ姿を目指して

### 重点①【課題を見つけるための工夫】

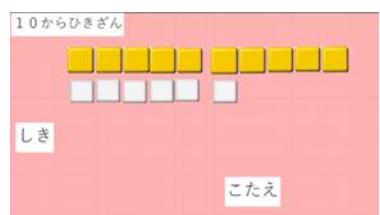
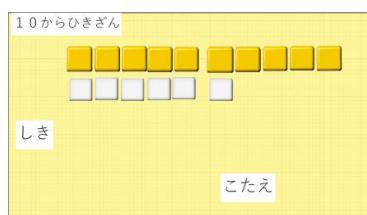
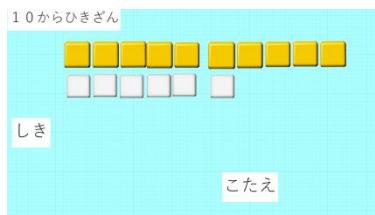
児童が主体的に学習に取り組むために、「10のまとめ」「ばらの数」など用語を用いて既習内容を振り返る学習履歴や板書を掲示することで前時との違いに気付かせる。

### 重点②【考え方を広げ深めるための工夫】

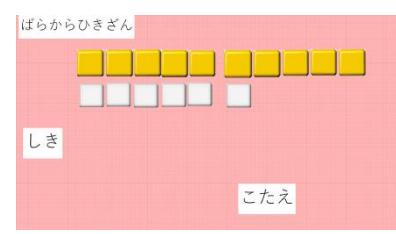
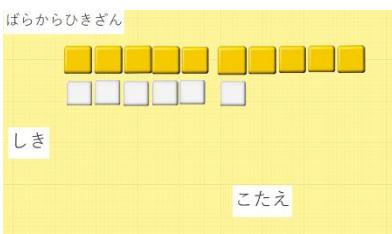
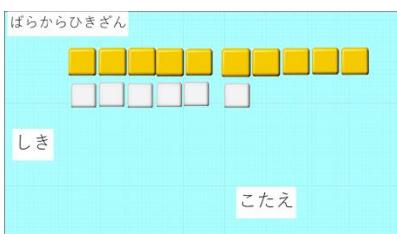
児童が自分の考え方を広げ深めるために、オクリンクを用いて意思表示を行う。自分の考えに対して色別カード（青ができた、説明できる・黄ができたが、説明はできない・赤がよく分からない）で意思表示をする。自信のない児童は「同じやり方の子」、もう一つのやり方と比較したい児童は「違うやり方の子」と交流することで、児童同士が必要感をもって関わることができるようにする。

オクリンク画面

(10からひきざん)



(ばらからひきざん)



## 6 単元計画（総時間9時間）

次	主な学習活動	重点 (○) 評価 (□)
一	<p>&lt;どこからひけばよいのかな&gt;</p> <p>ばらのかずからひけないときは10のまとまりからひくといいよ。</p>	○10のまとまりを意識させるために10のブロックをケースに入れて掲示する <b>態1</b> (発言・ICT)
	<p>&lt;13-9のけいさんのしかたはどうすればよいかな&gt;</p> <p>13-9も、さくらんぼさくせんで、10のまとまりとばらのかずにわけてけいさんするといいよ。  「10からひきざん」さくせん。</p>	○計算の仕方や説明の仕方を全員で共有するためにブロック操作と図のかきかたの手順を言葉で表現する <b>知1</b> (発言・ICT)
	<p>&lt;14-8のけいさんのしかたはどうすればよいかな&gt;</p> <p>14-8も、10のまとまりとばらのかずにわけて、10のまとまりから8をひくといいよ。</p>	○オクリングを使って説明できるように、学習履歴や言葉カードを用いる <b>思1</b> (発言・ICT)
	<p>&lt;はやくかんたんにとるにはどうすればいいかな&gt;</p> <p>やっぱり、「10からひきざん」でできたよ。</p>	○児童のつまづきの様子に応じて全体指導と個別指導を分ける <b>知4</b> (観察、ICT)
二	<p>&lt;12-3のけいさんのしかたはどうすればよいかな&gt;</p> <p>ばらのかずからひく「ばらからひきざん」でもけいさんするといいよ。</p>	○3をどのようにとるのか、軌跡を残すために図をかく <b>知2</b> ※ (発言・ICT)
	<b>本時</b>	
三	<p>&lt;けいさんカードをつかってれんしゅうしよう&gt;</p> <p>まえよりすらすらひきざんのこたえがだせるようになったよ。</p>	○繰り下がりのあるひき算の計算を正確にできるようにするために、繰り返し計算カードで練習する <b>知3</b> (ICT・観察)
	<p>&lt;どんなきまりがあるかな&gt;</p> <p>ひきざんもたて、よこ、ななめで見ると数が1ずつふえた りへったりしている。</p>	○式の数と答えの関係に気づかせるために、計算カードに線を引く <b>思3</b> (ICT・観察)
	<p>&lt;ひきざんはばっちりかな&gt;</p> <p>ひきざんも10のまとまりとばらのかずをつかってけいさんしたらできたよ。</p>	○学習履歴全体を活用して振り返る <b>態2</b> <b>思4</b> <b>知4</b> ※ (ICT・観察)

## 7 本時（第二次2時）

(1) ねらい 被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数を引くことに着目して減加法か減々法を選択して、図などによって説明することができる

(思考力、判断力、表現力等)

### (2) 本時のめざす児童の姿

自分が減加法か減々法のどちらで計算したのか相手に伝えようとする姿

### (3) 学習過程

主な学習活動と思考の流れ	時	支援（・）重点（○）評価（□）
○どうやって引き算したらよかったです ・「10からひきざん」「ばらからひきざん」でけいさんした <b>1 課題をつかむ</b> <16-7のこたえをみつけるにはどうすればいいのかな> <b>2 考えを持つ</b> ・16-7は10から7をひく「10からひきざん」でけいさんするよ ・ばら6とのこりの1を10からひく「ばらからひきざん」をつかうよ <b>3 自分の考えを伝え合う</b> <b>10からひきざん</b> 交流→全体の発表 ・はじめに、ばら同士の6-7はできないから、16を10と6にわけます ・つぎに10から7をひいて3になります ・さいごに、3と6で9になります <b>ばらからひきざん</b> ・はじめに、ばらの6をひきたいから7を6と1、16を10と6にわけます ・つぎに、ばらから6をひきます ・さいごに、10から1をひいて9になります <b>4 みんなで考えを深める</b> <<どうして、その方法を選んだのかな>> ・「ばらからひきざん」、わけはばらのかずをうごかすだけでらくだからです ○自分のやっていないやり方でやってみよう ・ほんとうだ。ばらからひきざんのほうがらくだった ・でも、わたしは10からひきざんのほうがあんしんだな <b>5 まとめる</b> 16-7のこたえをみつけるには、①10からひきざん②ばらからひきざん <b>6 適応問題に取り組む</b> ① 14-8 ② 14-5	3 7 15 10 3 7	・「10のまとまり」「ばらの数」など用語を用いて既習内容を振り返ることで、意味や使い方の定着をはかる ○黒板の実物（ブロック）を通して、どこから7を取るのか具体的に考えを持たせる <b>リアル</b> ○「はじめに」「つぎに」「さいごに」をヒントにすることで計算の手順を整理させながら説明できるようにする ○オクリンクの色別カードで意思表示をする。自信のない児童は「同じやり方の子」、もう一つのやり方と比較したい児童は「違うやり方の子」と交流することで、児童同士が必要感をもって関わらせる <b>デジタル</b> ○計算の仕方を複数回繰り返し発言させて言葉と操作の一貫性をはかる <b>リアル</b> 思②被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数を引くことに着目して、減加法か減々法を選択して、操作や図などによって説明している ※（発言、ICT）

